

# 第 21 期 pES club シナリオ 2

2022 年 2 月 13 日

聖母病院総合診療専門研修プログラム / 栄町ファミリークリニック

長谷川 優

社会福祉法人聖母会 聖母病院 総合診療科

南郷 栄秀

<http://spell.umin.jp>

あなたは、海老伝巣ファミリークリニックで総合診療専門研修中の 5 年目医師です。無床診療所で、外来・訪問診療を中心に毎日楽しく研修をしています。

ある日、脳性麻痺、気管支喘息、2 型糖尿病がある禎単粹蕪津（64 歳女性）さんが、もともと通院していた近医から、通院困難のため訪問診療を行って欲しいと、当院への紹介状を持って受診しました。その 8 日後、発熱、呼吸困難で再度受診しましたが、肺炎を契機とした気管支喘息発作が疑われたため、息子さんと相談して、息子さんが勤務している病院に緊急搬送しました。しかし後日、入院主治医から、せん妄で入院加療の継続が困難なので当院での診療継続を依頼されたと、当院の医療ソーシャルワーカー（MSW）から連絡を受けました。禎単粹さんの退院を待って早速訪問診療を開始し、自宅で禎単粹さんのせん妄が改善していることに安堵しました。

禎単粹さん 「入院中はよく覚えていないけど、家に無事帰ってこられて嬉しいわ」

あなた 「大変でしたね。これからまたよろしくお願いしますね」

診察を終え帰ろうとしたあなたは、禎単粹さんに呼び止められました。

禎単粹さん 「みかんの缶詰は食べてもいい？」

あなた 「え？・・・あ、糖尿病があるのでなるべく控えてくださいね」

突然思いがけないことを聞かれたあなたは、当たり障りのない返事をするのが精一杯でした。糖尿病には食事療法が必要と認識していましたが、具体的な食事指導はいつも栄養士さん任せだったことを反省しました。ただ、ダイエットジム来座布の広告をはじめネットでは低炭水化物食が身体に良いとよく目にするものの、糖尿病も改善するのには疑問に思い、根拠となる論文を調べることにしました。